

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	金曜 2 限(オンライン、予約が必要)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、社会心理学、情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A、社会調査論、社会調査演習 1
2022 年度担当科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、マーケティング、情報と社会、総合演習 B、基礎演習 A、基礎演習 B
授業概要	消費者行動またはメディアに関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けて実証研究を行う(何らかのフィールド調査を実施し、自分でデータを収集する)。テーマの例としては、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、ネット投稿のテキストマイニング、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選び、4 年生のときに自分でデータを収集する。収集したデータは、統計手法を用いて分析する。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をいくつか読んでから、3 年生の秋学期までに決める。

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@bunkyo.ac.jp
研究室	3208 研究室 (3号館2階)
在室曜日・時限	秋学期授業開始以降、月・火・水曜日に在室しています。(授業中の時間帯は教室にいます。) ゼミ見学、説明会、個別相談などの参加希望は、事前にメールして下さい。⇒ ishino@bunkyo.ac.jp
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビジネスデータ処理演習、情報社会のサービス 企画、ビックデータの社会への応用 ※これらの科目を履修していなくても特に問題はありません。 未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使えれば、ITの専門知識やプログラミング技術の必要性はありません。
2022 年度担当科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビックデータの社会への応用、キャリア研究C、 ビジネスデータ処理演習、情報システムの品質と信頼性、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習 A
授業概要	<p>本ゼミナールは担当教員が専門とするデジタル・IT領域をテーマとして体験型ゼミナールの授業を通して、社会でのデジタル・ITの応用分野や将来性についての理解を深めることを目的とする。なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身の関心がある分野を研究する。また、各人にゼミナールの研究成果を発表してもらい、教員から講評や改善点をコメントする。</p> <p>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢を探求する。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力、発想力、閃き ③IoTやAI活用のビジネスモデルを創成する。(注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア、しくみづくり ※IoT=Internet of Things, AI=Artificial Intelligence・人工知能</p> <p>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから自由に選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホアプリ、ウェアラブルセンサー、スマートスピーカー、IoT, AI, 5G, RPA, メタバース, AR, VR, MR, AI 献立, AI 作曲, AI 作文, 翻訳を活用した応用研究と実体験, 制作する。 ②デジタルトランスフォーメーション, サブスクリプション, シェアリングエコノミーのビジネスモデルの創造 ③社会・生活の ICT 活用:AI ファッションコーディネート, 美容・睡眠・脳波測定, 観光チャットボット ④IoT 活用スポーツ科学:活動量, ストレスセンサー等によるデータ分析, VR ライブスポーツ観戦 ⑤電子マネー・キャッシュレス社会, Web マーケティング, コト消費のトレンド等の分析と将来動向 ⑥SNS, 動画サイト等の活用によるビジネスモデル(例) YouTube, Facebook, LINE, Instagram 等の活用</p> <p>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日にゼミナール用の教室で実施する。テーマに必要な教材やツールを提供する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来の IT 応用ビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①各成果のビジネスモデル展開, 事例研究, キャリア研究, スペシャリスト, 企画力の研磨 ②卒論, プレゼンテーション, リーダシップ能力と IT 資格取得, 潜在能力ブレーク方法の獲得 本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。 様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学の養成と IT 活用で情報社会をデザインする!</p> <p>《メッセージ》IT 応用ビジネス体験から、情報社会のニーズにマッチした IT メディア構想や就活に役立て、ゼミ仲間と一緒に考え、実体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。 IoT や AI の多種のスマホアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を創造しよう!</p>

ゼミナール紹介

担当者名	大橋洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3限
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2022年度担当科目	情報表現演習 情報技術総合演習 プログラミング入門 基礎演習B 総合演習C 統計学入門 調査集計法A 調査集計法B 情報学序論
授業概要	<p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none">①データサイエンス分野の分析手法の習得②分析に基づいた商品開発の体験 <p>春学期には、データ分析に用いるプログラミング言語の使い方やデータハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。プログラミング言語としては「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。また、新たにデータ分析用のプログラミング言語を学び、応用力を高めます。使用する言語は「R」を想定しています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	火曜日の昼休み、水曜日の昼休み、金曜日の昼休みと 3 時限 ※研究室の web サイト (https://w.atwiki.jp/isakuma/) を確認してから来るようにしてください。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、情報社会における計量社会学入門、調査集計法 A、調査集計法 B を履修している（履修していない場合は、3 年次に履修すること）が望ましいです。
2022 年度担当科目	社会心理学、コミュニケーション戦略、社会調査演習 I・II など
授業概要	<p>本ゼミナールは、社会心理学研究(実験、調査、内容分析、公開データを含む二次データの分析)を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究)を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、以下の(3)や(4)に挙げられている題目を見ればわかる通り、メディアやコミュニケーションなど情報社会に関連した計量研究が典型的なものとして挙げられます(もちろんこれらに限定しません)。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 4 つになります。</p> <p>(1) 社会心理学の研究法：テキストや論文を講読しながら、社会心理学の研究方法について理解を深めます。</p> <p>(2) グループ研究：グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。2022 年度は春学期に講読した論文を追試するようなかたちで web 調査を実施しました。</p> <p>(3) 個人研究：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めてデータの収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。昨年のテーマは、「新型コロナウイルスが心理的側面に及ぼす影響に及ぼす影響」「ジェンダーフリー時代の女兒向けアニメの内容分析」などが挙げられます。個人研究を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p> <p>(4) 卒業研究のテーマの検討：4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。情報社会と関連づけることができるテーマであれば何でも構いませんが、自分で収集したデータ、もしくは既存のデータを分析し、それらの分析結果に基づき何かを主張するタイプの研究が望ましいです。これまでのテーマ例としては、「LINE 利用が家族関係に及ぼす影響」「スマホゲームの依存の原因と結果」「e スポーツに対するイメージ」「ディズニープリンセスの描かれ方の変化」「子ども向け番組の登場人物の内容分析：仮面ライダーシリーズを対象とした研究」など質問紙調査 (web 調査) や内容分析に基づくものが多いです。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	西尾好司
e-mail アドレス	knishio3@bunkyo.ac.jp
研究室	3403
在室曜日・時限	水曜、木曜（必ず事前にメールにて連絡を下さい）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会のビジネスモデル、情報社会における問題の発見と解決 （3年次開講科目）情報と企業のイノベーション、ビジネス発想演習
2022年度担当科目	上記と同じ
授業概要	<p>1. 3年次のゼミナールの目標</p> <p>3年次のゼミナールでは、①文献・資料を読む、レジュメを作成する、講義で議論する習慣を作れるようにすること、②秋学期のゼミナールⅡにおいて卒業研究のテーマや研究の方向性を確定し、卒業研究として基本的な文献資料の調査・整理に着手できるようにすることを目標に進めます。</p> <p>2. 3年次のゼミナールの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献・資料の輪読を行い、文献・資料の読み方・理解の深め方、著者の問題意識、研究方法・情報・データ収集方法を学びます。使用する文献は、企業活動を中心に、地方公務員志望者がいることも想定し、地方行政に関するものも取り上げます。 ・企業活動では、Apple、小松製作所、アサヒビール、ルミネ、良品計画などの事例を使い、イノベーション、製品・サービス開発、デジタル化、ビジネスモデルを議論。 ・地方行政に関しては、地域振興やまちづくり、社会課題の解決などを取り上げます。 ・その他に、情報・データ収集方法や研究の進め方も説明します。 <p>3. 卒業研究のテーマの決め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の関心を持つ内容をベースに、学生と相談してテーマにする方針です。 ・3年の夏休み前に面談を行い、関心領域や卒業研究の方向性を議論し、秋学期のゼミナールⅡの前半では、学生の関心領域にあう文献・資料を取り上げ、各自の関心を具体化し、卒業研究のテーマにつなげていくようにします。 <p>4. これまでの卒業研究のテーマの例</p> <p>ビジネスモデル（音楽、サブスクリプション）、製造業の振興、新しい働き方・協働、農業のデジタル化、観光、スポーツを活用した地域振興、中心市街地・商店街の活性化、教育のデジタル化など。</p> <p>5. その他</p> <p>毎回、学生は事前に資料を作成して参加することを原則としています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月、火のお昼休み(図書館などにいることも多いので、事前に連絡をいただくと助かります)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2022 年度担当科目	データベース入門、図書・図書館史、基礎演習B、図書館概論、情報サービス論、情報サービス演習、総合演習A、総合演習C、システム開発技法、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。なお、図書館情報学は図書館のサービスや資料に限らず、検索システム、情報行動と幅広い分野を含んでいます。</p> <p>ゼミでは3年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになります。4年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。</p> <p>コロナの終息後の合宿などの授業外活動は、やるかどうかも含めて学生の意思を尊重します。ただ、せっかくゼミでやるならただ遊びに行くのではなく、合宿なら地方の図書館を訪問するなど、ゼミでしかできないようなことをしたいと考えています。論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	月曜～木曜、金曜 4、5 限（平日の午後は概ね在室していると思います）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2022 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、不確実性とリスクのマネジメント、情報社会における都市計画等
授業概要	<p>交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、<u>論理的思考能力、プレゼンテーション力</u>など様々な素養を身に付けることが出来ます。</p> <p>また、SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など<u>就職対策</u>に関して学内トップクラスの実績があります。</p> <p>研究室の概要は、下記 URL を参考にして下さい。 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~tslab/</p>

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目他
2022 年度担当科目	「企業活動と情報システム」「情報化要求の分析とソリューションの提案」 「システム分析」「システム設計」他
授業概要	<p>1. ゼミナールの目標</p> <p>本ゼミナールでは、情報社会での不透明な点を明らかにすること、またはそこにある課題を ICT により解決することをテーマに、卒業論文を完成することを目標とします。その過程で、調査・分析を行い、手法を習得することを授業での目的としています。</p> <p>2. 研究の主なテーマ</p> <p>卒業論文のテーマは、学生が個々に選択し提案できます。但し、教員の専門分野か、目標に沿う適切なテーマと致します。推奨する分野は以下のとおりです。</p> <p>(1) 情報システムの開発方法と開発マネジメント</p> <p>企業活動・社会活動の支える情報システムを、開発する（作る）立場で考えます。従来のシステム開発は、予め決められた品質・予算・納期を守る開発方法とマネジメントで実施されてきました。しかし、不確実性の高い今日では、反復型やアジャイル型開発により柔軟にかつ迅速に顧客に価値を提供できる開発方法が求められています。研究を通じて環境や経営の変化に対する情報システムの役割を考えていきます。</p> <p>(2) 実社会での情報システム</p> <p>今日の社会では、農業、建設業、電気・ガス等社会公共事業、金融業、製造業、小売業、福祉事業など、多くの業種の企業が活動を営んでいます。</p> <p>研究では、あるひとつの業種・業態に焦点を絞り、そこに固有の課題とそれを情報化により解決する方法を探ります。</p> <p>(3) その他</p> <p>情報社会の課題に対して ICT による解決策を提案することで、社会、企業、ユーザーに「役に立つ」テーマを選び研究として推進します。</p> <p>3. セミナールで習得する調査分析手法</p> <p>【定量分析】 ・ Google Form でのアンケート作成と実施方法、 ・ 相関分析 (Excle/ R Studio), t 検定 (Excle/ R Studio)</p> <p>【定性分析】 ・ 半構造化インタビュー質問票作成と実施方法 ・ テキストマイニング (KH コーダー)</p> <p>4. メッセージ</p> <p>・ 実際の企業活動を伺う機会として企業の実務家の講演会、意見交換会を行います。 ・ 「情報システム開発に関する研究」、「情報社会の課題解決の提案」は、就活でも、企業に就職してからも直に役立つテーマです。 ・ 情報生産者として、一緒により良い情報社会を提案し築いて行きましょう。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	新任 A (ビッグデータ解析と人工知能分野)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	
2023 年度担当予定 科目	ビッグデータ解析の社会への応用、情報社会と人工知能、人工知能論、データマイニング、プログラミング演習 B、プロジェクトマネジメント演習 I、プロジェクトマネジメント演習 II など
授業概要	2023 年 4 月着任予定。 個別相談などは、学科長の佐久間、または教務委員の西尾が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。

ゼミナール紹介

担当者名	新任 A (システム開発技法)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	
2023 年度担当予定 科目	システム設計、システム開発技法、プロジェクトマネジメント演習 I、プロジェクト マネジメント演習 II、プログラミング入門、プログラミング演習 A など、
授業概要	2023 年 4 月着任予定。 個別相談などは、学科長の佐久間、または教務委員の西尾が代わりに実施します。希 望する学生は必ず個別相談を受けてください。